

2017.3.22(水)

▶ 4.16(日)

平成館 企画展示室

東京国立博物館
コレクションの

保存と修理

本特集は今年で17回目を迎えました。このリーフレットでは、今回展示する作品の中から「朱筋溜塗打刀」「放積図」の修理について解説し、また当館内の保存修復の現場を「予防」「診断」「修理」の観点からご紹介します。文化財の素材や技法、状態に適した修理を行ない、未来へつなげる活動をご覧いただき、一味違う展示をお楽しみいただければ幸いです。

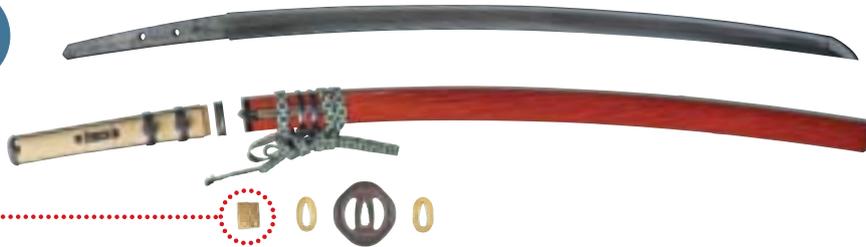
朱筋溜塗打刀

しゅすじためぬりうちがたな 【F-20203-2】

1口 江戸～明治時代・19世紀
総長93.6cm 柄長22.9cm 鞘長70.3cm
修理 高山一之(白鞘、継木) 宮島宏(鍔)

幕末から明治時代の武士、政治家であった大久保忠寛(一翁、1817～88)が特に愛蔵していた刀剣で、重要文化財である刀身は鎌倉時代の刀工の一派、大和・当麻派の代表作です。一翁は刀剣収集家としての顔も持ち、所蔵の刀剣には趣向を凝らした刀装を詠えていました。その一つであるこの刀装は、高度で複雑な漆芸技法が駆使され、華やかでありながらも無駄のないシャープな作風が示されています。

修理前



漆塗を施した鞘(塗鞘)で刀身を収納していたため、鞘の内側がクリーニングできず、長期間の安全な保管方法を検討する必要がありました。また、鍔という金具が一部損傷しており、安全な取り扱いが困難でした。

柄と鞘を固定する金具です。太刀や打刀などでさまざまな種類があり、表面の鍔目にも技法や趣向が尽くされました。

白木(しら)の鞘で一般的に朴の木から作ります。内部の清掃を行うため、容易に二つに割れるようにした保管用の鞘です。

修理前



新規作製



組み合わせるとき上側となる「上貝」と、下側となる「下貝」からなる二重鍔です。牡丹柘乘鍔と呼ばれる複雑な鍔目が見られますが、下貝の一部が損傷していました。

鍔には所持者の趣向が反映されているので、同じ鍔目とした鍔を新たに作製して、白鞘と刀身に取り付けました。もとの鍔は継木と呼ばれる木製の刀形に取り付け、塗鞘とその柄は継木で一つに組み立てられました。



白鞘には、10年以上乾燥させた朴の木で年輪が細かいものを吟味して用います。刀身の形に合わせて削り、刃に対して平行方向で二つに割って刀身が入るよう溝を刻みます。その後、表面を丸みのある八角に削るなどして仕上げます。二つに割った鞘の接着は、再度鞘を割ってクリーニングができるよう、続飯と呼ばれる飯粒を練った糊を使用します。

修理後

保管用の鞘を作製することで、長期間安定した保管が可能となりました。塗鞘も継木によって一つの刀装として組み立てられ、刀身とは別にして鑑賞することができるようになりました。

白鞘



塗鞘



今回は刀の刃ではなくそれを保存する鞘が主人公なのよ



ほー

放犢図

重要文化財

ほうとくず【TA-618】

平山処林賛 1幅
中国 元時代・14世紀 絹本墨画
本紙 縦108.9cm 横47.1cm
修理 (株)半田九清堂

ゆったりと流れる川の傍らで、のんびり釣糸をたれる人物と、紐につながれずにくつろぐ牛。ともに隠逸を象徴するモチーフで、自然の中での自由な生活への憧れを表わしています。水気のある墨面の柔らかな広がり、ややつたなく気取らない筆の運びも、画意に即しています。牛の気持ちを詠んだ賛は、杭州にある浄慈寺の禅僧・平山処林(1279~1361)によるものです。

修理前

補絹(穴を埋めるために補う絹)と肌裏紙(補強のため本紙の裏に直接貼られる和紙)の接着剤が古くなって柔軟性を失い、掛軸全体に浮きや折れ、断裂などの損傷が広がっていました。

修理後

全体がしなやかになり、細かな水墨の表現もすっきりと見えるようになりました。

① 補絹



古い補絹の接着力が弱くなり、重なり部分が浮いて本紙の欠損が進行している危険な状態でした。



本紙裏面の旧補絹をすべて取り外しました。



新しい補絹には、本紙の組織と類似した絵絹に電子線を照射して人工的に劣化させたものを用いました。これを染色して、欠損部の形に切り抜き、本紙の絹目に合わせて埋めました。

② 肌裏紙



古い肌裏紙には、濃く墨染めされた楮紙が使用されており、絹目の隙間から表面に透けて見えて鑑賞の妨げになっていました。



古い肌裏紙をすべて除去しました。



本紙の織りむらが目立たず、絵を鑑賞する上で妨げにならない色を検討し、墨と植物染料で染色した新しい肌裏紙を裏打ちしました。

細かい作業で
スゴイほー



保存と修理の現場をのぞいてみましょう!

博物館の裏側では、あらゆる分野の文化財をより良い環境下で保存し、安全に展示するために、保存科学や保存修復の専門家たちが文化財に寄り添い、展示を支えています。

今度は
保存修復のお仕事を
見に行きましょう



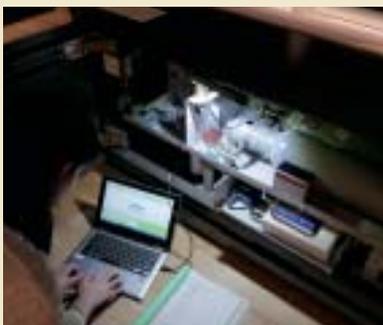
予防

文化財をとりまく環境を整える

文化財の劣化や損傷の原因は、空気環境、光、害虫、移動による振動など、あらゆる場面に隠れています。文化財のおかれる環境を把握して改善するために、温湿度の記録だけでも約300地点(特別展を除く)ものデータを日々集積・分析し、館内全体の環境のメンテナンスを実施しています。



● 展示ケース内の湿度を保つため、調湿剤を設置



● 酸化予防のために窒素を充填させたケース内の環境調整



● 展示ケース内の温湿度状況をデータから確認

診断

文化財や保存環境の状態を把握する

東京国立博物館では、より安全な展示や保存、修理ができるように目視だけでは得られない情報を科学的に調査し、文化財とその環境の診断を総合的に行ないます。文化財の内部構造などの診断には大型X線CT(コンピュータ断層撮影)装置を用います。



科学の進化が
文化財を
守るのだほー



● 修理前の仏像のCT撮影中



● 仏像の内部の状態を確認

修理

損傷を直し文化財の安定化をはかる

収蔵品には、損傷により展示が難しい文化財もたくさんあります。修理をすることで、安全な展示を可能にし、収蔵庫で眠っていた文化財が再び展示される機会を生み出します。また、劣化が原因でおきる二次的な損傷を防ぐためにも、修理は大変重要です。当館では、解体を含む大がかりな本格修理と、展示に向けたクリーニングや必要最小限の修理などを含む対症修理を実施しています。

本格修理は年間80件、対症修理は年間700件以上の文化財に対して行なっています。

大切な仕事
なんだほー



● 日本絵画の本格修理。左は補絹箇所の補彩を行っており、右は絵具の状態を点検中



● 古写真を展示するため、写真に負担をかけない工夫をし装丁します



● 休館日に、展示中の不動明王像の接着がゆるんだ部分の補修とクリーニング

出品リスト

No.	名称	員数	作者／出土／伝来等	時代	列品番号	備考
1	◎ 放犢図	1幅	平山処林賛 中国	元時代・14世紀	TA-618	
2	見立王昭君図	1幅	桃源斎栄舟筆	江戸時代・19世紀	A-529	
3	雉図・竹図・達磨図	1巻	板谷家伝来	江戸時代・18～19世紀	A-12372-2566	板谷廣起氏寄贈
4	重要雑録 明治二十七～二十九年	1冊		明治27～29年（1894～96）	館史資料680	
5	鉢（ワンブー）	1口	沖縄本島 壺屋焼	第二尚氏時代・19世紀	K-25956	
6	茶チューカー	1個	沖縄本島 壺屋焼	第二尚氏時代・19世紀	K-25947-2	
7	色絵牡丹文小皿	2口	沖縄本島 壺屋焼	第二尚氏時代・19世紀	G-3966	
8	蓋付茶碗（蓋付マカイ）	2合	中国・景德鎮窯	清時代・18～19世紀	K-25953	
9	肴鉢	1口	中国	清時代・18～19世紀	K-25957	
10	壺形土器	1個	北海道小樽市手宮出土	縄文時代（前期） 前2～前1世紀	J-11977	徳川頼貞氏寄贈
11	土師器 小型埴形土器	1個	大阪府柏原市・藤井寺市 船橋遺跡出土	古墳時代・3～4世紀	J-38857-4	田村淳正氏寄贈
12	須恵器 有蓋長頸壺	1合	岡山県久米郡美咲町 錦織高塚出土	古墳時代・6世紀	J-3097	
13	五彩獅子文有蓋壺	1合	中国・景德鎮窯	清時代・17～18世紀	TG-973	横河民輔氏寄贈
14	龍濤堆朱簞筥	1基	中国	清時代・18世紀	TH-116	
15	梅花文印櫃	1口	清水南山作	昭和4年（1929）	E-19840	
16	朱筋溜塗打刀	1口		江戸～明治時代・19世紀	F-20203-2	
17	男神坐像	1軀		平安時代・12世紀	C-1036	
18	享保雛	2軀		江戸時代・18～19世紀	I-1579	江澤由三郎氏寄贈

◎は重要文化財です。

関連事業 — ギャラリートーク

最新情報はウェブサイトで <http://www.tnm.jp/>

特集「東京国立博物館コレクションの保存と修理」

日時：3月24日（金）18：30～19：00

場所：平成館企画展示室

講師：高橋裕次（保存修復課長）

* 絵画、陶磁器、考古遺物など、さまざまな分野の作品について行なった修理の内容やその成果を、わかりやすく紹介いたします。

「保存と修理 立体作品修理の現場から」

日時：4月11日（火）14：00～14：30

場所：平成館企画展示室

講師：野中昭美（保存修復室アソシエイトフェロー）

* 考古遺物や工芸品などを見ながら、立体作品修理の難しさやおもしろさをお伝えします。

「保存と修理 絵画修理の現場から」

日時：3月28日（火）14：00～14：30

場所：平成館企画展示室

講師：平河智恵（保存修復室アソシエイトフェロー）

下田純平（保存修復室アソシエイトフェロー）

* 作品の状態や展示活用にあわせた処置を、展示作品を見ながらご紹介します。

「ここに注目！ 保存と修理入門」

日時：4月14日（金）18：30～19：00

場所：平成館企画展示室

講師：瀬谷愛（保存修復室主任研究員）

* 展示室の解説には書ききれない、注目のポイントや舞台裏についてお話しします。

